

3月7日(日) 会場/アクロス福岡4F・国際会議場



第1部

挨拶 17:00~17:20

開会 長崎大学教授 有吉紅也

司会 RKB毎日放送アナウンサー 辻満里奈

主催者 長崎大学学長 河野茂

来賓 駐日英国大使館 臨時代理大使 スー・木下

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 西明夫

座長スピーチ
17:20~17:30

ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長 ピーター・ピオット
東京大学名誉教授、元日本感染症学会理事長・会長 岩本 愛吉

基調講演
17:30~18:35

コロナとグローバルヘルス(疫学・公衆衛生)

国立国際医療研究センター国際感染症センター長 大曲 貴夫
ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院教授 ジョン・エドモンズ(感染症数理モデル)
京都大学教授 西浦 博(理論疫学)

感染症数理モデルを駆使し、日英の政策決定者へコロナ流行の状況把握と対策に関する科学的なアドバイスをやってきた理論疫学者と日本を代表する感染症臨床医が、それぞれの立場から1年間のコロナを振り返ります。また、ショートプレゼンテーションでは、欧州やアジアの状況についても紹介があります。

ショートプレゼンテーション
18:35~18:55

欧州委員長特別顧問 ピーター・ピオット

長崎大学教授 クリス・スミス(臨床熱帯医学)

第2部

19:05~19:55

パネルディスカッションと質疑応答 座長・演者全員

閉会挨拶 19:55~20:00

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長 北 潔

分科会

オンラインのみで開催
英語使用(同時通訳付き)

3月8日(月) 17:00~18:15

3月9日(火) 17:00~18:15

コロナ禍の臨床現場と臨床研究

コロナ禍のラボサイエンス(ウイルス学、免疫学等)



オックスフォード大学
教授
ピーター・ホービー



国立国際医療研究センター
臨床研究センター長
杉浦 互



ロンドン大学UCL病院
教授
ロビン・ベイリー

世界に先駆けてステロイド治療の公開を証明した英国の専門家がその背景について、また、日本より死者数が何十倍にも膨れ上がった英国の臨床現場に立ち続けた臨床教授が臨床研究に参加することの意義を語ります。一方で、日本の臨床研究を代表する専門家が我が国の臨床試験の現状と課題について語ります。



グラスゴー大学・
ロンドン大学教授
エマ・トムソン



国立感染症研究所
感染病理部長
鈴木 忠樹



東京大学
医科学研究所教授
河岡 義裕

世界に先駆けて変異株の異変に気が付き警告を発した英国コロナゲノム解析コンソーシアムの中心メンバーが公衆衛生対策に結びつくラボ研究の背景を語ります。また、国立感染症研究所の専門家が、世界をリードするウイルス学者とともに、日本発新型コロナウイルス感染症研究の最先端について語ります。

福岡の対面会場とロンドン、
東京をオンラインで結んで開催。
全国各地でオンライン視聴。

【感染症対策への注意事項】 ●参加者は氏名・住所・電話番号を記入いただけます。●消毒液による手指消毒をお願いします。●マスクを着用すること、また大声で話さないこと。●人と人との十分な間隔(2メートルほど)を確保してください。●発熱・体調不良がある方は入場をお断りします。

【後援】



【協賛】



お申込み ▶ <https://iscgh.jp/>
お問合せ ▶ 長崎大学卓越大学院プログラム運営事務局
contact@iscgh.jp



参加無料 会場参加、オンライン視聴
共に無料

新型コロナウイルス感染拡大の際は、オンライン配信のみで開催します。